

## 第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
場 所  
指導者

### 1 単元名

「日本語の数え方について考えよう」 教材名「数え方を生み出そう」

### 2 単元の目標

考えと理由や事例、全体と中心の関係を理解できる。紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

### 3 単元の評価規準

| 知識・技能                                    | 思考・判断・表現                                                          | 主体的に学習に取り組む態度                                                   |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ①考えと理由や事例、全体と中心の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） | ①「読むこと」において、紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有している。（C(1)ウ・C(1)カ） | ①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。 |

### 4 指導上の考察

#### （1）単元について

日本語の数え方について、紹介したい考えと、それを説明する事例の関係を読む。珍しい数え方の収集だけで終わらず、数える言葉を考えるときに何に着目するかを要約して伝える。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

#### （2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

#### （3）指導について

考えの文と事例を対応させ、事例を省いても考えが説明できるかを確かめる。創作した数え方は自分の案と明示し、慣用的な用法は辞書等で確認する。おおむね満足できる状況は、紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

### 5 指導と評価の計画（全10時間）

| 次   | 時   | 学習活動                      | 評価規準（評価方法）   |
|-----|-----|---------------------------|--------------|
| 第1次 | 1～2 | ○全文を読み、知っている数え方と本文の疑問を出す。 | 学習状況を見て支援する。 |

| 次   | 時             | 学習活動                            | 評価規準（評価方法）       |
|-----|---------------|---------------------------------|------------------|
| 第2次 | 3～4           | ○中心となる考えと事例を整理し、関係を説明する。        | 知①（語句や内容の整理）     |
|     | 5<br>（本<br>時） | ○紹介に残す内容を選び、要約を作る。              | 思①（発言・学習記録）      |
|     | 6             | ○原文と比べ、書き手の考えが変わっていないか確かめる。     | 学習状況を見て支援する。     |
|     | 7～8           | ○要約と自分の考えを伝え合い、事例の選び方を比べる。      | 学習状況を見て支援する。     |
|     | 9             | ○数え方を考える活動を行い、自分の案と確認された用法を分ける。 | 学習状況を見て支援する。     |
| 第3次 | 10            | ○事例と中心を関係付けて読んだことを振り返る。         | 態①（学習前後の記録・振り返り） |



## 6 本時の指導（5／10）

### （１）本時の目標

紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有できる。

### （２）学習過程

| 段階          | 学習活動（○主な発問）<br>・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 指導上の留意点（◎評価）                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>（ 分）  | <p>本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。</p> <p>○「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】日本語の数え方について、紹介したい考えと、それを説明する事例の関係を読む。</p> </div> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の名前だけでは書き手の考えが伝わらない。</li> </ul> | <p>本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 展開<br>（ 分）  | <p>○「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」</p> <p>自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の名前だけでは書き手の考えが伝わらない。</li> <li>・物の見方と数え方が関係している。</li> <li>・友達の要約は違う事例でも同じ考えを説明している。</li> </ul>  | <p>考えの文と事例を対応させ、事例を省いても考えが説明できるかを確認する。創作した数え方は自分の案と明示し、慣用的な用法は辞書等で確認する。</p> <p>想定する難しさ：助数詞の暗記に偏る。自分で考えた数え方を実際に使われている語として断定する。</p> <p>児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。</p> <p>◎思① 紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有している。（発言と学習記録）</p> |
| まとめ<br>（ 分） | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。</p> </div> <p>学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。</li> <li>・友達の要約は違う事例でも同じ考えを説明している。</li> </ul>            | <p>まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。</p> <p>◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）</p>                                                                                                                                            |

### (3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

